

令和4年度（2022年度）
京都市立芸術大学大学院音楽研究科（修士課程）入学試験問題
語学（英語）

A：以下の文を読んで設問に答えなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

(Koen, Benjamin D., Barz, Gregory, and Kenneth Brummel-Smith. 2011. "Introduction: Confluence of Consciousness in Music, Medicine, and Culture." In *The Oxford Handbook of Medical Ethnomusicology*, eds. Benjamin D. Koen, Gregory, Barz, and Kenneth Brummel-Smith, 13-14. New York: Oxford University Press.)

注：evanescent=つかの間の， ineffable=言いようもない， power-laden=力のある

- 1) 下線部 1 music has been far more than a tool とはどのような意味か説明しなさい。
- 2) 下線部 2 persists を別の言葉で言い換えるとしたら、次のうちどれが最も適切でしょうか。
a) insists b) pursues c) preserves d) consists e) remains
- 3) 下線部 3 the modes of action of musical and related interventions often remain obscure と著者が考える理由を説明しなさい。
- 4) 下線部 4 music is a universal language について、著者の考え方と比較しながら、あなた自身の考え方を書きなさい。

B : 以下の文を日本語に訳しなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

(Shelemay, Kay Kaufman. 1991. "Recording Technology and Ethnomusicological Scholarship."
In *Comparative Musicology and Anthropology of Music*, eds. Bruno Nettl and Philip V.
Bohman, 287. Chicago: The University of Chicago Press)

令和4年度(2022年度)
京都市立芸術大学大学院音楽研究科入学試験
語学(ドイツ語)

以下は、作曲家グスタフ・マーラー（1860～1911）の元妻アルマ・マーラー＝ヴェルフェル（1879～1964）が1940年に出版した回想記の序文である。また、四角で囲まれているのは出版社による回想記の紹介文である。これらを読んで設問に答えなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出展のみ記載しています。

この問題は著作権法上の関係により、出展のみ記載しています。

出典：Alma Mahler-Werfel, *Gustav Mahler: Erinnerungen* (Frankfurt a. M.: Fischer, 1991), S. [3], S. 9–10.

※新正書法に従って一部改変。

- *1 Rodins Mahler-Büste フランスの彫刻家オーギュスト・ロダン(1840～1917)が1909年に制作したマーラーの胸像。
- *2 Drittes Reich 第三帝国。1933～1945年のドイツにおけるナチスの支配体制の公式名称。
- *3 Richard Strauss リヒャルト・シュトラウス(1864～1949)。ドイツ出身の作曲家。
- *4 Willem Mengelberg ヴィレム・メンゲルベルク(1871～1951)。オランダ出身の指揮者。
- *5 Bruno Walter ブルーノ・ヴァルター(1876～1962)。ドイツ出身の指揮者。
- *6 Otto Klemperer オットー・クレンペラー(1885～1973)。ドイツ出身の指揮者。

問1 下線部①と②を日本語に訳しなさい。

問2 波線部㉞と㉟を、下記の意味になるように並べ替えなさい（ただし、文頭に来るべき単語も小文字で記してある）。

㉞ 「もともとわたしは、生前にこの本を出版するつもりはありませんでした。」

㉟ 「この現代音楽の偉大な巨匠が、わたしたちの世紀 [20世紀] の最初の10年においてマーラーの唯一のライバルだったということを忘れてはなりません。」

問3 (A) ~ (E) に当てはまる単語をそれぞれ一つ選びなさい。

A: (ア) zwischen (イ) von (ウ) mit (エ) wegen

B: (ア) worden (イ) werden (ウ) geworden (エ) wurden

C: (ア) machen (イ) leisten (ウ) nehmen (エ) spielen

D: (ア) in (イ) zu (ウ) mit (エ) auf

E: (ア) vor (イ) für (ウ) an (エ) über

問4 文章の内容に沿っているものには○を、沿っていないものには×をつけなさい。

(ア) アルマは、マーラーとの思い出を詳しく書き記することで苦い過去を清算しようとしている。

(イ) 感情を一切込めない淡々とした文体で、マーラーと過ごした時間を客観的に報告しているのがこの回想記の特徴である。

(ウ) ナチスの支配によって、ユダヤ人であるマーラーの痕跡はウィーンの街から消されてしまった。

(エ) ドイツ国外では、何人かの指揮者がマーラーの交響曲の価値を認め、普及に努めている。

(オ) アルマ自身は、マーラーの作品が忘れられてゆくのは時代の必然であり、仕方がないと割り切っている。

令和4年度（2022年度）
京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程入学試験問題

外国語（仏語）

I. 次の文を日本語に訳しなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

Histoire de la musique occidentale, sous la direction de Brigitte et Jean Massin, avec la collaboration de Philippe Beaussant,
Messidor/Temps actuels, 1983, 2 vols., t. II.

II. 次の文を日本語に訳しなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

Vladimir Jankélévitch, *La Présence lointaine : Albeniz, Séverac, Mompou*, Éditions du Seuil, 1983.

III. 以下の文をフランス語に訳しなさい。

1. 私はあなたが成功するように、できる限り（あなたを）手伝いますよ。
2. 彼は大声で歌いながら、料理をする。
3. 私には、お母さん*が有名なピアニストの友達（女性）がいる。（*友達のお母さん）
4. もし彼女がミスをしなかったら、コンクールで賞がとれたのに。

令和4年度（2022年度）
京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程入学試験問題
外国語（イタリア語）

1. 次の文章を日本語に訳しなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

(*Enciclopedia Italiana di scienze, lettere ed arti (La Treccani)*)

2. 次の文章を日本語に訳しなさい。

この問題は著作権法上の関係により、出典のみを記載しています。

(Ottó Károlyi, *La grammatica della musica*, Torino, Einaudi, 2000)

3. 次の文章をイタリア語で書きなさい。

1. モーツァルト作曲の《フィガロの結婚》は、1786年にウィーンで初演された。
2. 私は日本人の学生で、貴校で声楽を学びたく思っております。
3. 「今週末、一緒にコンサートに行かない?」「バイトがなかったら行きたいのだけど」
4. Covid-19のせいで、私のお気に入りの女性ピアニストが来日できないのは残念だ。

令和四年度（二〇二三年度）

京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程入学試験問題

語学 日本語（古典）

次の文章は『枕草子』の第二百四段の全文です。設問の都合上、全体を①②

③の三つの段落にわけて記してあります。本文（および語釈）をよく読み、

問一～問五に答えてください。

① 笛は、横笛、いみじうをかし。遠うより聞こゆるが、やうやう近うなりゆくも、をかし。近かりつるが、遙かになりて、いとほのかに聞こゆるも、いとをかし。車にても、徒歩よりも、馬にてもすべて、ふところに入れて持たるも、なにも見えず、さばかりをかしきものはなし。まして、聞き知りたる調子などは、いみじうめでたし。暁などに忘れて、をかしげなる、枕のもとにありける見つけたるも、なほをかし。人の、取りにおこせたるを、おし包みてやるも、立文のやうに見えたり。

② 笙の笛は、月の明きに、車などにて聞き得たる、いとをかし。所狭く、持てあつかひにくくぞ見ゆる。さて、吹く顔やいかにぞ。それは、横笛も、吹きなしまゆりかし。

③ 箏篋は、いとかしがましく、秋の虫をいはば、轡虫などの心地して、うたて、け近く聞かまほしからず。まして、わろく吹きたるは、いと憎きに、臨時の祭の日、まだ御前には出でず、ものうしろに、横笛いみじう吹き立てたる、「あな、おもしろ」と聞くほどに、なからばかりよりうち添へて、吹き昇りたるこそ、ただいみじう、うるはし髪持たらむ人もみな立ちあがりぬべき心地すれ。やうやう、琴・笛に合はせて、歩み出でたる、いみじうをかし。『枕草子』第二百四段

語釈

○いみじ〓大変である ○をかし〓すばらしい ○いと〓大変に ○やうやう〓だんだん ○すべて〓ともかく ○めでたし〓価値がある、喜ばしい ○立文（たてぶみ）〓礼紙で巻き、その上をさらに白紙で包装し装飾を加えた形式の書状（手紙） ○所狭し〓せまくて窮屈である ○吹きなし〓吹き方 ○かしがまし〓騒々しい ○轡虫（くつわむし）〓キリギリス科の昆虫でガチャガチャと鳴く ○うたてし〓気に入らない、嫌だ ○けちかし（気近し）〓身近である ○わろし〓下手である ○ものうしろ〓祭が行われる場所の蔭 ○なからばかり〓途中あたりから ○うるはし〓端麗である ○立ち上がりぬ〓ぞっとして髪が逆立ってしまう ○やうやう〓ようやく

注記

この問題の本文、約物（句読点、括弧等）は、萩谷朴校注『枕草子 下』（新潮日本古典集成、一九七七年）に従うが、一部変更した。

問一、次の文章は、段落①の網掛け部分に対して、文法的説明をおこなったものです。空欄【ア】～【ツ】にはいる適当な文法用語を、選択肢(い)～(ふ)から一つずつ選んで解答欄に記してください。同じものを、複数回選んでもかまいません。

「いみじうをかし」(意味は「大変にすばらしい」)の中の「いみじう」の本来のかたちは「いみじく」である。「いみじく」の語末の「く」が、発音の上で「う」に変化し、「いみじう」と発音されるようになり、そのまま表記された。この変化は【ア】と呼ばれる変化である。「いみじうをかし」を構成する「いみじう」と「をかし」は、どちらも、その品詞は【イ】詞である。「いみじう」の本来のかたちである「いみじく」は、「いみじ」と「く」の二つの部分に分解できる。前者の部分は【ウ】と呼ばれ、後者の部分は、【エ】と呼ばれる。【エ】は、その次に接続する品詞の種類に応じて変化する。接続によっておこる変化は、活用と呼ばれる。「いみじ」は、直後に「をかし」という【イ】詞が接続されるために、「いみじ」から「いみじく」へと変化する。その活用形は【オ】形と呼ばれている。「いみじく」に続く「をかし」の活用形は【カ】形である。文としてのひとまとまりの区切りが生まれる形である。

「遠うより聞ゆるが」(意味は「遠くから聞こえるのが」)の「遠う」は、「いみじう」と同じく、【ア】と呼ばれる変化を起こしている。もともとは「遠く」であり、それが「遠う」に変化している。「遠く」の品詞は【キ】詞で、その活用形は、【ク】形である。「聞ゆる」に接続するからである。「聞ゆる」の基本のかたち(活用していないかたち)は、「聞ゆ(きこゆ)」で、その品詞は【ケ】詞である。一般に【ケ】詞には、さまざまな活用の種類がある。「聞ゆ」の活用の種類は、【ユ】活用であり、「聞え」「聞え」「聞ゆ」「聞ゆれ」「聞えよ」と活用する。この中で「聞ゆる」の活用形は【サ】形である。【サ】形をとる理由は、「聞ゆ」が「が」に接続するからである。「が」の品詞は【シ】詞である。この「が」は、「だが」「しかし」のように逆接の役割を果たすのではなく、主部(あるいは主語・主格)をあらわす役割を担う。

「をかしげなる、枕のもとにありける見つけたるも」を現代語に訳すと「すばらしい横笛が、枕元に置いてあるのを発見するというのも」となる。このうち、「をかしげなる」の「なる」は、【ス】詞の「なり」が【セ】形に活用したものである。先にとりあげた「遠うより聞ゆるが」の場合には、「が」という【シ】詞がついていたので、その部分が主部(主語)であることがよくわかった。ここでは「をかしげなる」の後に「が」が省略されていると考えられる。そのように考えると、後につづく「枕のもとにありける」は、「をかしげなる」という主部に対する述部であると理解できよう。「ありける」の「あり」は【ソ】詞である。「ける」は【タ】詞「けり」が活用したもので、活用形は【チ】形である。「ける」は、そのまま「見つけたる」に接続されているが、この前に【ツ】詞の「を」があってもよいはずだが、ここでは省略されている。

選択肢

- | | | | | | | |
|-------|-------|--------|--------|---------|--------|--------|
| (い) 動 | (ろ) 助 | (は) 助動 | (に) 形容 | (ほ) 形容動 | (へ) 接続 | (と) 連体 |
| (ち) 副 | (り) 名 | (ぬ) 未然 | (る) 已然 | (を) 終止 | (わ) 連用 | (か) 命令 |

- (よ) 四段 (た) ナ行変格 (れ) ラ行変格 (そ) 下二段 (つ) 下二段
- (ね) 上二段 (な) 上二段 (ら) カ行変格 (む) サ行変格 (う) ク (ゐ) シク
- (の) 係り結び (お) 音便 (く) 語尾 (や) 語幹 (ま) 語頭 (け) 撥音
- (ふ) 促音

(問一 解答欄)

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 【ア】
 | 【イ】
 | 【ウ】
 |
| 【エ】
 | 【オ】
 | 【カ】
 |
| 【キ】
 | 【ク】
 | 【ケ】
 |
| 【コ】
 | 【サ】
 | 【シ】
 |
| 【ス】
 | 【セ】
 | 【ソ】
 |
| 【タ】
 | 【チ】
 | 【ツ】
 |

問一 段落①の中の傍線部分「笛は、横笛いみじうめでたし」までをわかりやすい現代語に置き換えてください。

(問一 解答欄)

問三、段落①の中の傍点部分「忘れ」「あり」「見つけ」「おこせ」「やる」「見え」は、それぞれその主体が誰(何)であるか、いわゆる主語が省略されています。文章の流れをよく読みとって、それぞれにふさわしい主体(主語)を、選択肢(1)～(4)の中から選んでください。同じものを、複数回選んでもかまいません。

「暁などに忘れて」の部分の主語は《ア》である。

「をかしげなる、枕のもとにあり」の部分の「あり」に対する主語は《イ》である。

「見つけたるも、なほをかし」の部分の「見つける」の主語は《ウ》である。

「取りにおこせたる」の「おこす」の主語は《エ》である。

「おし包みてやる」の「やる」の主語は《オ》である。

「立文のやうに見えたり」の主語は《カ》である。

選択肢

- (1) 笛の所有者の使者 (2) 笛が残されていた家の人 (3) 楽器の笛
(4) 笛の所有者

(問三 解答欄)

《ア》 》 〓

《イ》 》 〓

《ウ》 》 〓

《エ》 》 〓

《オ》 》 〓

《カ》 》 〓

問四、段落②の全文「笙の笛はく吹きなしなめりかし」を現代語に訳してください。

(問四 解答欄)

